

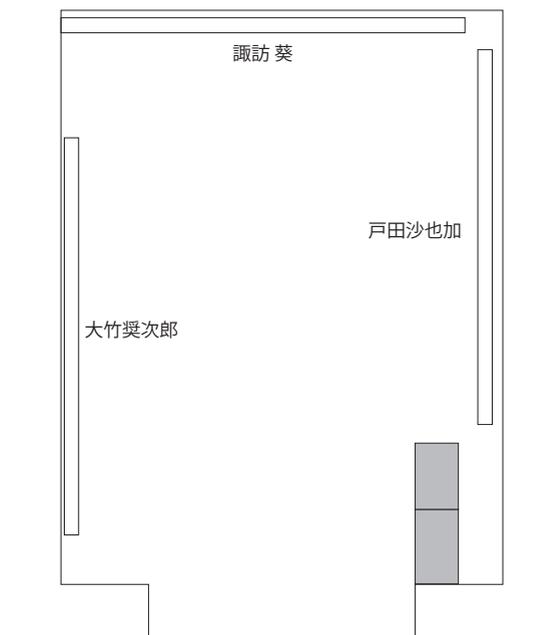
KYOBASHI ART WALL GROUP EXHIBITION

Vol.3 2025.10.28—2025.11.8 11:00-19:00 *Sun, Mon closed

大竹奨次郎 | 諏訪 葵 | 戸田沙也加

「KYOBASHI ART WALL—ここから未来をはじめよう」は、2024年11月に開業した TODA BUILDING の建設現場の仮囲を活用して、アーティストの創作や発表の場を提供するプログラムです。2021年よりスタートし、2024年までの間半年に1回、全4回にわたり作品を募集、優秀作品及び奨励作品を選出し、TODA BUILDING 建設現場の仮囲での展示のほか、各優秀作家の展覧会を開催しました。プログラムの最後を締めくくる本グループ展は、ビル3階の APK ROOMにて16名の入選作家による展覧会を4期に分けて開催します。入選作品に限らず、アーティストが今見せたい作品を展示し、アーティストたちの”現在”を紹介します。会期毎に共通点を持つアーティストが集いながらも、それぞれの活動フィールドで育んできた表現の多様さを感じられるでしょう。

Vol.3では、実験的に事象の見方を変え続け、変化を捉えて制作に繋げるアーティストの大竹奨次郎、諏訪葵、戸田沙也加の3名を紹介します。



Left

出展作品リスト

作家名 《作品タイトル》 制作年 素材

1. 大竹奨次郎 《Untitled》 2025年 キャンバスに油彩
2. 大竹奨次郎 《Untitled》 2024年 キャンバスに油彩
3. 大竹奨次郎 《Untitled》 2025年 キャンバスに油彩
4. 大竹奨次郎 《Untitled》 2024年 パネルに水彩、クレパス

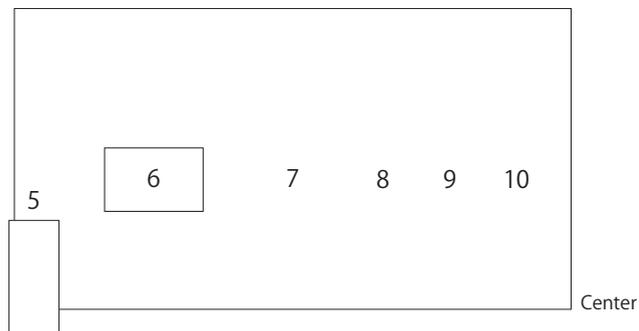
作品について

大竹の作品はすべて「Untitled」です。タイトルで意味を決めてしまわず、実験の連なりの中に開かれたまま置いておきたい、そのような気持ちがあるのかもしれません。制作過程について、「丸を描いてみて、四角を描いてみると、これとこれの関係して次のものが現れた」と、実験報告のように話します。知見を集めては実験を重ねる科学者のように、大竹は常に多くの絵を見て、多くの本を読み、絵を生み出してきました。今回の展示では、2024年から2025年に描いてきた作品のうち4点を展示しています。展示のたびに記すステートメントも、あわせてご覧ください。

大竹奨次郎

第3回優秀作家

1994年東京都生まれ。2020年武蔵野美術大学油絵学科卒業。卒業後の活動として、個展を毎年開催。2020年「花咲く絵画たちの光」(マキイマサルファインアーツ/東京)、2021年「花についての花 魚についての魚 街についての街」(リバーアンドコーヒーギャラリー/東京)、2022年「竜泉」(Liamgallery/東京)など。



5. 諏訪 葵 《「描き」のためのオブジェクト》 2025 年
ペインティングナイフ、実験用スタンド、金属部品、アクリル、回転盤
6. 諏訪 葵 《色と揺れ》 2025 年
画用紙にアクリル、PCに取り込み Photoshop でレイヤーを積層
7. 諏訪 葵 《Preparaion of the Painted Moment》 2025 年
アクリル板にアクリル
8. 諏訪 葵 《Painted by Itself》 2025 年 インクジェットプリント
9. 諏訪 葵 《Scanning / Painting》 2025 年 インクジェットプリント
10. 諏訪 葵 《Scanning Painted Moment》 2025 年 インクジェットプリント

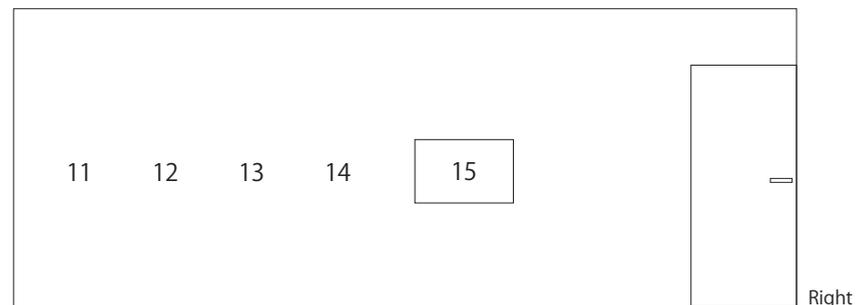
作品について

諏訪は、境界や境目に興味があり、空間や絵の表象に現れる現象を探求する作品を展開しています。自分の意図しないところで起こるモノの変化や揺らぎの表現に着目し、油絵など平面の制作から、立体・インスタレーションなどメディアを横断する作家です。現象を絵画的に捉えていく発想は科学者からも共感を呼び、交流から得た専門的な知見を踏まえて、さらに奥深く探求しています。今春に発表した博士論文も会場に置いてありますので、ご覧ください。

諏訪 葵

第2回奨励作家

1991年 東京生まれ。2025年、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、同博士号取得。現象を探りながら作る実験的なインスタレーションと平面作品の制作、学際的な活動に取り組む。文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業の支援を受け、2024年に自主企画の「まだ見ぬ識閥」を日本とドイツで発表。



11. 戸田沙也加 《Japanese sago palm #1》 2023 年
アルミ複合版にアーカイバル・ピグメント・プリント
12. 戸田沙也加 《Japanese sago palm #2》 2025 年
アルミ複合版にアーカイバル・ピグメント・プリント
13. 戸田沙也加 《Japanese sago palm #3》 2025 年
アルミ複合版にアーカイバル・ピグメント・プリント
14. 戸田沙也加 《Signal》 2025 年
アルミ複合版にアーカイバル・ピグメント・プリント
15. 戸田沙也加 《境界の肌理》 2025 年 Color, Video 19'04"

作品について

戸田は、制作にあたって入念なリサーチを行います。資料や書籍を読み込むだけでなく、関係する人やモノとの共有する時間を大切にします。今回のモチーフである植物についても近年注目し、触れて、観察をして制作に臨みました。ひとつの事象や問いを多面的に掘り下げ、時間をかけて向き合うそのプロセスこそが、戸田の表現を確かな強みへと導いています。そのまなざしには深い愛情と葛藤が共存し、鑑賞者に強い意味をもたらすことでしょう。

戸田沙也加

第1回奨励作家

醜さの中に内在する美しさや暴力性を、外来種の動植物や女性の姿を通して絵画や写真、映像などを使用し表現する。近年は友人や家族など身近な関係から生まれた問いや、ジェンダーについて扱った作品を制作。2025年6月に横浜美術館で個展「沈黙と花」を開催。